

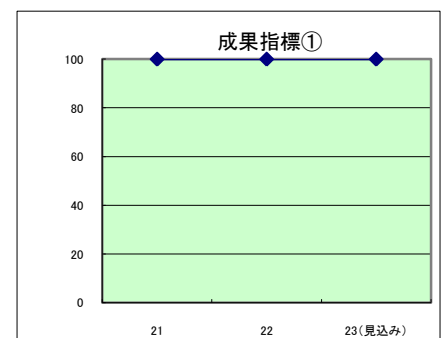
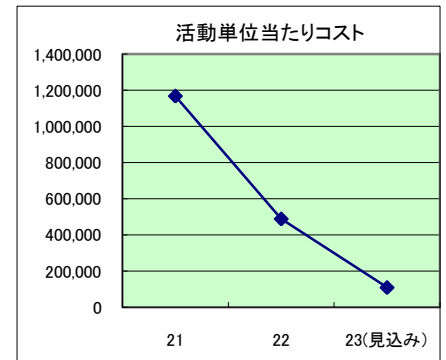
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

保子16

事務事業名		ダルビッシュ有子ども福祉基金事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	款	3	民生費	
	施策(節)	1	子育て支援	項	2	児童福祉費	
	施策の方向	(1)	子育て家庭への支援の充実	目	1	児童福祉総務費	
	関連する計画等			事業	60	ダルビッシュ有子ども福祉基金事業	
作成部署				保健福祉部子育て支援課			
連絡先				072 - 958 - 1111 内線 1220			
事業の目的							
対象(誰を・何を) 子ども 意図(どういう状態にしたいのか) プロ野球ダルビッシュ有選手からの寄付金を積み立てた基金を通じて、心身の健やかな成長に寄与する。 ダルビッシュ有選手の、自分が生まれ野球をしてきたこの羽曳野市において、子どもたちが健やかに生き生きと育つように支援していきたいというご意思のもと、公式選で1勝するたびに10万円を寄付していただいている。寄付金を「ダルビッシュ有子ども福祉基金」に積み立て、子どもの福祉に役立つ事業に活用している。 <基金を活用した取組内容> ・中央図書館にダルビッシュ有文庫を開設し、スポーツ関連の書籍を配架する。 ・市内児童養護福祉施設の子どもたちを野球観戦ツアーに招待。							
事業の内容							
根拠法令等 羽曳野市ダルビッシュ有子ども福祉基金条例							
事業開始時期							
☐ 昭和 20 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 終了年度 平成 年度 ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている							
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望							
実施手法							
☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()							
委託先							
☐ 市外郭団体委託 名称() ☒ 民間委託 ☐ その他							
委託内容 イベント開催委託業務							

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		1,587	258	923	
人件費【2】 (千円)		750	720	720	
職員数	正規職員	0.10 人	0.10 人	0.10 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,337	978	1,643	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)	1,587	258	923	
	一般財源 (千円)	750	720	720	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① イベント参加者等数		人・施設	2	2	15
② ダルビッシュ有文庫購入冊数		冊	31	34	34
③					
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		1,168,500 円	489,000 円	109,533 円	
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		20 円	8 円	14 円	



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	イベント参加者等率 (式) イベント参加者等数÷事業対象者(施設)数×100	%	事業の対象者(施設)に対して、実際に参加等した人数(施設数)	目標	100	100	達成率(%)	100
					実績	100	100	100.0%	
	②	ダルビッシュ有文庫貸出冊数 (式)	冊	本を通じて市民にスポーツを身近に感じてもらう	目標	300	500	達成率(%)	1,500
					実績	316	1,068	213.6%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	ダルビッシュ有選手の子どもの福祉に役立てたいとの意思を具体化するためには、市の関与が必要である。

視点	分析のためのチェック点			はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い			☐	☐	☒	ダルビッシュ有選手の意思に沿って、市が寄付金の受け皿となる基金を設置・管理し、次代を担う子どもたちの福祉に役立てることは妥当である。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない			☐	☐	☒	
	社会情勢の変化に対応している			☐	☐	☒	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない			☐	☐	☒	
	国・府の事業と重複していない			☐	☐	☒	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい			☐	☒	☐	
	緊急性が認められる			☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)			☒	☐	☐	事業費は、基金からの繰入金で賄われているため、コストは適切である。また、基金が一定でない中、単年度で事業を企画し効率良く事業を実施している。
	受益者負担の割合は適当である			☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない			☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない			☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない			☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない			☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない			☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である			☒	☐	☐	子どもたちの心身の健やかな成長に寄与することを目的としている。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である			☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない			☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている			☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している			☐	☐	☒	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている			☐	☐	☒	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している			☐	☐	☒	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている			☐	☐	☒	
達成度	成果指標の目標値は適正である			☒	☐	☐	事業対象者(施設)に対する、実際のイベント参加者等率は、100%の数値で推移している。また、文庫蔵書数及び貸出冊数とも、着実に増加している。
	成果指標の実績値は目標値以上である			☒	☐	☐	
	成果指標は前年度より向上している			☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	事業を通じて、子どもたちの心身の健やかな成長に寄与している。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 基金収入が一定でない中、ダルビッシュ有文庫は継続して蔵書数及び貸出冊数の増加を図り、その他事業に関しては単年度でできることを考えて実施していく。	

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	